



クラシノソコアゲ応援団! RENG0 キャンペーン

全道キャラバン通信

NO. 62 2018. 5. 29 発行責任者 連合北海道組織労働局

高プロ反対! 国政報告街宣

連合北海道は5月26日、緊急街頭演説と国会議員による国政報告会(以下集会)を開催した。前日の厚生労働委員会における強行採決への抗議と高度プロフェSSIONAL制度(高プロ)の反対、国会議員による国会報告があり、組合員約100名のほかに、複数の買い物客が足を止めて訴えに耳を傾けた。

冒頭、出村会長は「昨日の厚生労働委員会で行われた強行採決は、言語道断である。野党の委員会欠席は、加計・森友問題で首相自らが招いたもの。データの不備も日々明らかになり、都度、その質疑で時間を費やされ十分な審議ができていない。自ら招いた審議不足にもかかわらず強行採決は民主主義を否定している」と述べ、質疑を打ち切り、採決を強行した内閣に対して強く抗議した。

「長時間労働を助長する定額働かせ放題の高プロは、年間104日、月4日以上のお休みさえあれば、24時間連続で働かされても問題がない内容となっており、更なる過労死・過労自殺を招きかねない」と高プロの危険性を訴えた。また、「政府は、柔軟な働き方が増えると言っているが、実際の仕事の間では、仕事の量、期限、結果が求められ、仕事に追われているのが現状である。労働者の自由な裁量は全くない。」「労働時間管理は、すべて自己責任となり、使用者責任はない。」と、働く現場と制度の問題点について述べ、高プロ削除を強く求めた。

連帯の挨拶に駆けつけた立憲民主党の佐々木代表(衆議院議員)は、「われわれ国会議員は、デタラメのデータで働き方改革の議論させられていた。審議の過程でも次々とデータの不備が出てきた。国会と行政に問題である。」と述べ、国会審議の在り方そのものに疑義を訴えた。

また、国民民主党の徳永代表(参議院議員)は、「残業時間の罰則付き上限規制と36協定の見直しは、労働者保護の上で大きな一歩であったが、過労死を助長しかねない高プロは、まったく反対の制度。」と述べ、これらの法案を束ねて一括で審議をするのではなく、高プロを分けて審議する必要性を訴えた。「参議院では、委員会、本会議でしっかりと追及を重ね、高プロの問題点をひとつひとつ国民に明らかにしていきたい」と決意を述べた。



強行採決に抗議する連合北海道の出村会長



高プロの危険性を述べる出村会長(右から)、佐々木代表、徳永代表



集会には約100名が参加。通行人が足を止める姿も。

働き方改革関連法の強行採決に抗議する緊急街頭集会

日時: 5月29日(火)18:00~【終了後、デモ行進あり】

場所: 札幌市「大通り西4丁目」(駅前通り)